設楽発掘通信

No.32
平成29年
11月号

マサノ沢遺跡で様々なイベントが行われました。

七月から進めているマサノ沢遺跡（小松所在）の発掘調査では、土器棺墓や配石遺構などの貴重な遺構が発見されており、大きな成果が得られています。このマサノ沢遺跡では十月に様々なイベントが行われました。

去る十月二十八日（土）のマサノ沢遺跡地元説明会は、あいにくの雨で見学会そのものは中止となりましたが、その中でも来跡された二十名の方々には遺跡の説明を聞き、遺物を見学していただきました。

また、その日の午後には、「レッツ！発掘体験と温泉」という企画が行われ、県内各地から十一家族、三十七名の方々が参加しました。この企画は、愛知県旭高原少年自然の家と愛知県埋蔵文化センターが共同で企画したイベントです。発掘体験は雨天のためにできませんでしたが、出土した遺物を洗浄したり、土器の表面の文様を拓本という技法で写し取ったりしました。家族で歴史を学ぶ絶好の機会となりました。

この他に、十月十日（火）には、田口小学校の六年生（九名）が遺跡を見学し発掘調査を体験学習しました。また、十月三十日（月）には、名倉小学校の六年生（六名）が発掘調査を体験学習しました。両校とも、児童のみなさんは、実際に地面を掘って土器や石器などが出土する場面を目の当たりにし、この設楽町でも古くから人々が生活をしていたことを学びました。

このような企画は、今年度はこれで終了いたしますが、来年度以降も見学会や体験発掘などの企画を続けていきたいと考えています。

（愛知県埋蔵文化財センター　鈴木（すずき）正貴（まさたか））

発掘調査の体験中！

マサノ沢遺跡の調査

マサノ沢遺跡では、九月末にA区の空中写真撮影を行いました。下の写真はその時に撮影した全景写真です。そこで、今号ではA区の調査成果をお伝えしたいと思います。

A区北半部（写真の右側）は、すでに調査がほぼ完了した状態です。写真右側の黄色く見える部分は、後世の削平を受けており、当時の地表面から大きく下がっています。そのため、この範囲では遺構や遺物はほとんど見つかっていません。川側に広がる茶色い部分は当時の地表面から下がってはいるものの大きな削平は受けていないと考えられ、多くの遺構や遺物が見つかりました。特に注目すべきものとして、前号でお伝えした土器棺墓のほか、竪穴建物跡と考えられる遺構が二棟見つかりました。遺物も縄文時代後期～弥生時代前期（約二千五百～三千五百年前）の土器のほか、石鏃（矢じり）や打製石斧（土掘り具）、磨製石斧（木を切る道具）をはじめとした多量の石器が出土しました。

A区南半部（写真の中央部上側）はまだ遺構の検出（表面を掃除して、遺構の形を確認する作業）を行ったばかりの状態です。遺構の形が分かりやすいように白線を引いて、撮影しました。現在は、そこから調査が進んでおり、多くの遺物が見つかり、遺構の様相も少しずつ分かってきました。目立った遺構としては、北側にあったものと同様の土器棺墓のほか、土器が埋設されたものや、同一個体と考えられる破片が集中して出土したものなどが数基見つかっています。また、竪穴建物跡も数棟重なり合っていると考えられ、詳しくはまだ検討中です。遺物の傾向としては、出土量は増えていますが、北側とほぼ同様の時期の土器が出土しています。ただし、北側と比べてより古い時期の土器の割合が多くなっているように感じます。また、北側ではあまり見られなかった石錘（おもり）のほか、土偶や岩版（石に線を刻んだもの）といった珍しいものも出土しており、異なった特徴がみられます。これらの遺物に関しては、別の機会に詳しく紹介したいと思います。

現在は、A区南半部の調査も進み、B区の調査も始まっています。今後の成果にご期待ください。

（株式会社二友組　岩瀬大輔）

全景写真（右が北）

大畑遺跡の調査

大畑遺跡では、現在C・D区（地区割図参照）の表土掘削と並行して、C区の竪穴建物跡などの遺構を掘削しています。C・D区は中央の谷の西側部分で、中央部の西端には、東西約三十メートル・南北約百メートルの細長い平坦な場所があります。その南側と西側は急斜面で、西側の斜面の下には大栗遺跡があります。平坦な場所には、円形の竪穴建物跡と思われる遺構が七棟見つかっており、その標高は、四三三メートルで、A区で見つかった竪穴建物跡とほぼ同じ標高にあります。少ない平坦な場所を利用して、縄文人が生活していたのかもしれません。竪穴建物跡の床面からは、たくさんの炭が見つかっていることから、炉跡が見つかる可能性があります。また、チップ（石器を作る際に出る石屑）が多く見つかっていることから、建物内で石器の製作をしていたのかもしれません。

その他の遺構は、北側の斜面部分から東西に延びる溝や、竪穴状の遺構が見つかっており、遺物は土器片、黒曜石製の石鏃（矢じり）、磨製石斧、剥片などが見つかっています。

（株式会社二友組　髙木祐志）

竪穴建物跡の掘削風景（南西から）

C区北側の遺構（西から）

大畑遺跡 地区割図

発掘現場で働く人々―ラジコン操縦士

遺跡の発掘現場は、様々な業種の人達が、それぞれの役割を果たしながら協力しあうことで成り立っています。今回は『ラジコン操縦士』を紹介します。

右頁にて、マサノ沢遺跡での空中写真撮影（以下、空撮）を取り上げています。空撮では、上空から遺跡の全景写真や人の目線からは写せないような写真を撮影します。それに用いるのは、カメラを搭載した産業用ラジコンヘリコプターやマルチコプターなど、通称ドローンと呼ばれる遠隔操縦が可能な無人航空機です。筆者の感覚では、空撮と言えばラジコンヘリコプターを思い浮かべますが、近年ではマルチコプターを用いる場面が増えているようです。これらの操縦には熟練した技術が求められ、冬場の強風時でも、ドローンを的確に操縦し、写真を撮影する操縦士さんの腕前にはいつ見ても舌を巻くばかりです。

操縦士さんに訊ねてみたところ、撮影依頼は年間で百回を優に超え、遺跡の発掘現場のほかに、植生調査や災害時の状況撮影などがあるそうです。また、こうした空撮を行う企業も存在しますが、多くは個人事業者で、その数は全国で三十人程度だとか。ドローンの操縦に『資格』は存在しない分、個々の操縦士の技術と信頼がものを言う厳しい世界が思い起こされます。

空撮写真は、その遺跡の立地環境、あるいは遺構の配置や分布など、その遺跡全体の状況を示すものとして非常に重要なものです。その仕上りは、撮影準備に費やした時間に左右されるものではありますが、最終的にはラジコン操縦士の腕一つでどのようにも変わってしまうと言っても過言ではありません。全国の操縦士さん達は、遺跡の調査にとって非常に重要な役割と責任を背負って、今日もどこかでドローンを操っているのです。

（株式会社二友組　鷺坂有吾）

ラジコンヘリ操縦風景

棚田に似た石の地層

設楽町の隣、新城市の四谷地区には「四谷の千枚田」として有名なみごとな棚田が見られます。鞍掛山（標高八八三メートル）の南西斜面を標高差二〇〇メートルにわたり階段状にひろがる田んぼは、稲の植わる水平な田面と、田面を垂直に囲う石積みからなります。棚田は人が作った階段状の構築物です。棚田とよく似た構造の地形が、人の手を借りずに自然につくられる場合があります。「段丘（だんきゅう）」といいます。階段状の地形で、水平な平坦面（段丘面）と急傾斜の崖（段丘崖（だんきゅうがい））の組み合わせからなります。段丘が河川沿いにできれば「河岸段丘（かがんだんきゅう）」とよびます。設楽町の段戸山（標高一一五二メートル）を源流とする豊川は「長篠の戦い」で有名な新城市長篠から豊川市にかけて、豊川右岸に沿う北東‐南西方向に良好な河岸段丘を形成しており、地形や地質の専門家には特に有名な場所となっています。

設楽町の発掘調査でも、かつての河岸段丘跡が見つかっています。二〇一五年（平成二十七年）の川向東貝津遺跡の発掘調査（写真1）では直径三十センチメートルを超える石（石を専門的には礫（れき）といいます）からなる地層が見られました。一つ一つの石の角は丸みを帯びています。長い距離を運ばれて角がとれ、磨かれたことがわかります。また、石の上面は一定の標高にならび、大きくへこんだり、出っ張ったりせずおおよそ水平にならびます（写真2）。調査区の横には現在、境川が流れますが、この石の地層を川側へさらに重機を使って深く掘り進めたところ、現在の河川流路の方向へ傾斜した石の地層を観察できました。水平な平坦面と急勾配の崖からなる組み合わせ。地面に埋もれていたかつての河岸段丘が、まさに私たちの目の前に現われた瞬間でした。世界的にみても河岸段丘はヒトの生活場所として古くから利用されてきたようで、段丘の上では考古遺跡がよく見つかります。川向東貝津遺跡でも石の地層を覆う砂層から後期旧石器時代と縄文時代草創期の石器群が出土しています。設楽町でもすでにその頃から河岸段丘が利用されていた証拠となりました。河岸段丘がつくられる成因には地面の隆起・沈降、気候の変化とそれに伴う海水準の上昇・下降、周辺の火山活動や局所的・突発的な現象などが考えられます。実際にはそれらがいくつか組み合わさる場合が多いのですが、設楽町での組み合わせが気になるところです。

（愛知県埋蔵文化財センター　鬼頭剛）

写真１ 川向東貝津遺跡全景（2015 年撮影）

写真２　現れた石の地層

設楽発掘通信
No.32
平成２９年１１月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒４９８-００１７ 愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４
電話（０５６７）６７-４１６１【管理課】 ４１６３【調査課】
ホームページ http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　株式会社 二友組